

2018.1.28 年間第四主日

汚れた霊に取りつかれた男をいやす

マルコによる福音 1:21-28

イエスは、安息日に（カファルナウムの）会堂に入って教え始められた。人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。そのとき、この会堂に汚れた霊に取りつかれた男がいて叫んだ。「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」イエスが、「黙れ。この人から出て行け」とお叱りになると、汚れた霊はその人にけいれんを起こさせ、大声をあげて出て行った。人々は皆驚いて、論じ合った。「これはいったいどういうことなのだ。権威ある新しい教えだ。この人が汚れた霊に命じると、その言うことを聴く。」イエスの評判は、たちまちガリラヤ地方の隅々にまで広まった。

説教

マルコの福音書ではイエスのガリラヤ伝道は悪霊払いから始まります。キリスト教ではこの悪霊は迷信ではなく、いまでも大真面目に悪霊払いはおこなわれています。また、悪霊払いはキリスト教だけに特有の儀式ではなくキリスト教以外の多くの信仰、宗教にもあります。日本の神社のお払いも悪霊払いの一種とも見ることができます。悪霊なんか非科学的だ、迷信じみていると意見もある意味でもっともなのですが、わたしたちは福音に耳をかたむけましょう。

イエスは安息日に会堂に集まっている人たちに教え始めた、と始まります。さて、いったいイエスは何を言ったのだろう、どんな説教、教えを説いたのかと興味がわくのですが、マルコ福音書にはその説教の内容は記録されていません。マルコは説教内容については沈黙しますがこう書き記します。

「人々は驚いた」なぜ驚いたか？その理由はこうです。

律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。1:22b
××のようにではなく、権威ある者として教えた、このことに人々は驚いたのだとあります。マルコは律法学者と書いていますが、ここの××を置き換えて学者、先生、政治家、有識者、牧師としても意味は同じです。さて、権威ある者とはいったいどのような意味なのでしょう。わたしはいろいろと考えたのですが、答えはきょうの第一朗読にありました。権威ある者とは預言者のことです。

(預言者)はわたしが命じることをすべて彼らに告げるであろう。申命記 18:18b
権威ある者とは人間によって権威を与えられ人ではなくて、神によって権威を与えられた人のことです。つまり神によって立てられた預言者のことです。権威とはいったいなんだろうといろいろ考えていたわたしは間違っていました。世俗的なもの、つまり世俗的な権威のことばかりに思いをめぐらし、神的な権威、霊的な権威ということが抜けていました。神のことばを解説しよう、取り次ごうとしているのに前提となる態度が、心構えが世俗にどっぷりつかっていた、この点を大いに反省しました。

イエスは会堂で説教した、聴いた人、会衆は権威ある教え（預言者のことば）に驚いた。まさにその時その場所に汚れた霊（悪霊）に取り付かれた男がいてイエスの真のすがたを正確にとらえてこう叫びます。

「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」 1:24

これに対してイエスが黙れと一喝すると悪霊は退散し、それを目の当たりにした人々は二度びっくりすることになります。

ここでイエスが「黙れ。この人から出て行け」といったようすが優しいイエスさまのイメージと違うのであれこれ説明する人もいますが、このイエスの一喝は悪魔に真のすがたをここであきらかにされてしまうと神の計画に狂いがでてしまうので怒ったとすれば、すっきりとはいかないまでもなんかわかるような気がします。これは伝道開始した直後の出来事です。洗礼者ヨハネ

はさいごの預言者とされています。イエスは彼の活動がひとまず終了してから「預言者以上のお方」として地上での宣教を始められます。イエスはたんなる預言者ではないということです。これは重要なこと、かつ誤解されやすいことなのでイエスは地上での全生涯をかけてわたしたち人間に伝えていきます。

マルコは福音書のなかで悪霊にイエスの正体＝真のすがたを語らせました。がいして人間は霊の働きにたいして鈍感です。でも霊ならば悪霊だろうが聖霊だろうが、そのはたらきに対して敏感に反応するという真実です。

イエスの評判は、たちまちガリラヤ地方の隅々にまで広まった。 マルコ1:28

このイエスの評判というのはおそらく人間たちの評判、うわさのことをマルコは書いているのですが、文章の裏には悪霊たちのあいだでもイエスの評判が広まったようすも表しています。福音活動をわるくいうつもりではありませんが、イエスはもぐらたたきのようにいろいろな場所に出向いて悪霊退治、病気直しをおこないます。人はそのイエスを見て徐々にイエスの真のお姿を見いだしていきます。いっぽう悪霊たちはすでにイエスのことを知っているので逃げまどい、イエスから姿を隠すことで生き延びようとしたでしょう。

わたしたちは悪霊に敬意をはらう必要などさらさらありませんが、悪霊が存在すること、悪霊はどこかに潜んでいることは正しく理解する必要があります。そしてイエスさまは悪霊に決して負けることはなく、イエスの一喝で悪霊は退散することをきょうの福音から学ぶことができます。
